



7



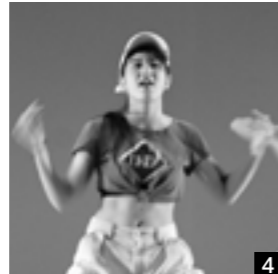
3



1



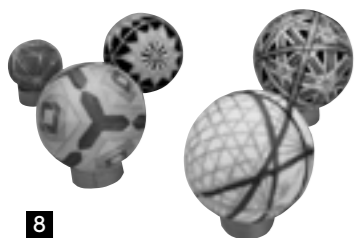
5



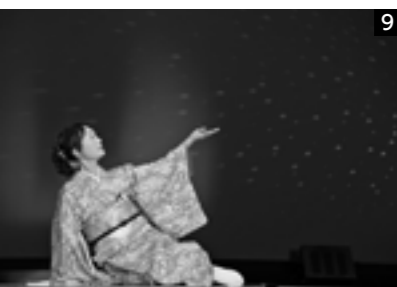
4



2



8



9



6

1 渾身の作品が並ぶ 2 優雅でしなやかなフラダンス 3 アレンジ曲で観客を魅了 4 リズムカルなジャズダンス 5 繊細で美しい切り絵 6 息の合ったバレエ 7 豊かな情感をあらわした舞 8 肥後手まり 9 『細雪』に合わせてしっとり踊る



1



2



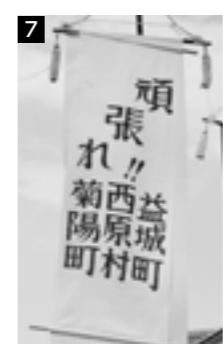
3



8



5



7



6



4

1 復興を願ってみこしを担ぐ町民 2 笛太鼓を響かせる道楽 3 みこしへご神体を入れる遷宮祭 4 5 担ぎ手たちをねぎらう地区の人々 6 7 復興を祈願するみこしとのぼり旗 8 神事で優雅な舞を踊る巫女

感動を呼び覚ます表現力「菊陽町文化祭」

菊陽町文化協会主催による文化の祭典「第40回菊陽町文化祭」が10月29日～11月3日に菊陽町図書館で開催されました。こしは40周年記念として舞踊祭が開催。期間中512人が出場し、4,180人が来場して芸術の秋を満喫しました。

会場では、菊陽町文化協会に加盟している団体などのステージ発表や作品展示が行われ、終日にぎわいました。ステージ発表では、日舞などの舞踊や三味線、歌謡、子どもたちのバレエなどに多くの人が出演し、日ごろの活動の成果を披露しました。客席から「良かったよー」などの励ましの声もありました。

展示では、書道、写真、手まりなど7団体の作品が展示。同時に茶道の実演も行われ来場者を楽しませていました。会場に設置した募金箱には、8万615円と多くの善意が寄せられ、社会福祉協議会などへ寄付されました。

活動の成果を披露 芸術の秋を満喫

郷土を旅する「お法使祭」

600年の伝統がつむぐ絆 熊本地震の復興を祈願

菊陽町無形民俗文化財に指定されている「お法使祭」が10月30日に行われ、ご神体が曲手地区から辛川地区へ受け渡されました。

ことしは熊本地震で甚大な被害が出たため、両地区の担ぎ手が受渡し場の鼻ぐり井手公園内を一緒に担いで回り、復興を祈願しました。

お法使祭は益城町の津森神宮の付属神事の一つ。菊陽町、益城町、西原村の12地区を順次1年単位で持ち回り、600年以上前から受け継がれてきました。当番地区では、それぞれ「お仮屋」を建て、1年間ご神体を安置し、翌年、次の当番地区へ受け渡しを行います。受け渡すときは、ご神体をみこしに入れて次の地区に渡します。

「熊本復興！頑張りよう熊本！」など元気の掛け声のもと、みこしが担がれている姿を見た観覧者には「熊本地震からの復興の元気をもらいました」と話す人もいました。